

ムギ類赤かび病の徹底防除について

平成14年3月27日

1. 赤かび病の発生予想

(1) 発生概要

発生時期： やや早 発生量： やや多

(2) 根拠

- ① 熊本気象台の1ヶ月気象予報では、4月の気温は平年に比べて高く、降水量は平年並の予想となっています。
- ② 主要品種の本年の予想出穂日（農産園芸研究所ほ場：合志町）は、シロガネコムギが4月1～2日（平年4月9日）、ニシノチカラが3月27～28日（平年4月6日）で、平年に比べ8～10日早くなっています。
- ③ 出穂期以降、曇や雨天で平均気温が15℃以上となる日が続く場合には、赤かび病の病原菌の増殖と飛散が多くなります。

2. 防除対策

本県の病害虫防除基準に基づき、感染が最も多い出穂期から開花最盛期にベルコート水和剤、アミスター20フロアブル、トップジンM水和剤などの散布を行います。多発が予想されるときは、その7～10日後に2回目の防除を行います。

3. 麦類の赤かび病由来のマイコトキシンについて

（平成14年3月13日．農林水産省生産局農産振興課：資料の要約）

- ① 麦類の赤かび病の原因となるフザリウム属の一部のカビは、デオキシニバレノール（DON）等のマイコトキシンを産生します。
- ② DONは、急性毒性として下痢、嘔吐等の中毒症状を引き起こすとされ、また、長期毒性として成長抑制や免疫力の低下等を引き起こすとされています。ただし、発がん性は認められていません。
- ③ 現在、コーデックス委員会の食品添加物・汚染物質部会において、DONの基準値策定に向けた議論が進められています。
- ④ 厚生労働省では、DONに係る実態調査を実施しており、また、農林水産省では国民の食の安全性を確保するため、厚生労働省と連携をとり、必要な措置を講ずる予定でいます。